

苫小牧東部地域開発検討会とりまとめ 骨子（案）

1. はじめに

○検討会の経緯・背景

- ・「苫小牧東部開発新計画の進め方について【第2期】」（以下、「進め方【第2期】」という。）は、対象期間である概ね10年が経過しようとしている。
- ・「進め方【第2期】」策定後における苫小牧東部地域の開発の進捗状況について、近年の社会経済情勢の変化等を踏まえて検証し、それを基に平成31年以降の段階的な方向性を検討することを目的として検討会を開催し、とりまとめることとなった。

2. 「進め方【第2期】」期間における進捗状況の把握とその課題

○社会経済状況の変化

- ・世界的金融危機や長引くデフレによる経済の長期低迷
- ・東日本大震災以降、エネルギー政策見直しの必要性や東京一極集中等の国土の脆弱性が顕在化。このため再生可能エネルギーの活用や生産拠点の分散化への動きが進む。

○立地状況

- ・進め方【第2期】期間中に分譲した産業用地の面積は69.7ha、累計で1089.2ha、そのほか、大規模太陽光発電施設、植物工場等の賃貸立地約437haを合わせると、産業用地全体の3割弱が利用されている。

○特に推進を図ることができた施策

[産業展開]

- ・自動車関連産業の集積・拡充<ダイハツ、光生アルミ北海道等>
- ・流通・物流関連産業<コメリ流通センター、苫小牧港開発、苫小牧埠頭、シーロック北一等>
大規模太陽光発電施設<苫東安平ソーラーパーク、苫東の森太陽光発電所等>
などの幅広い産業開発
- ・リサイクル産業<空知興産、マテック、明円工業等>やCCS実証試験の関連施設の立地等、環境関連産業
- ・北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区をはじめとする「食」産業強化に関する取組による道内の先進事例となる植物工場の立地

[基盤整備]

- ・国際コンテナターミナルの耐震強化岸壁、コンテナヤード、ガントリークレーン等の整備
- ・苫東臨海臨港地区の基盤整備<造成、道路・上下水道整備等>
- ・高規格幹線道路（日高自動車道）、道道上厚真苫小牧線等の整備

[環境保全等]

- ・NPO（苫東環境コモンズ）や地域住民（苫東・和みの森協議会）との連携等による環境保全・緑地利活用事業の取組
- ・とまこまいフィルムコミッションへの協力

○期待された進捗がみられなかった施策

- ・航空機関連産業
- ・資源・エネルギー分野のうち、「雪氷輸送物流システム」、「自然冷熱を活用した農産物の貯蔵・備蓄施設」、「バイオエタノール関連産業」
- ・大規模災害に備えた街づくり

○北海道・苫東地域の優位性

[従来より変わらぬ優位性]

- ・自然環境と産業活動の共生が可能
- ・北米、ヨーロッパと東アジアを結ぶ地理的環境
- ・夏は冷涼、冬は降雪が少ない気候

[社会経済状況の変化を受けて顕在化した優位性]

- ・災害リスクの分散の観点から、首都圏等の大規模災害時において北海道が担うバックアップ機能を可能にする交通アクセス、物流の優位性
- ・エネルギー政策の見直しに伴い活用が期待される再生可能エネルギーの大規模な展開が可能な土地
- ・北極海航路の利用増加による苫小牧港の国際ハブ港化への期待

○課題

産業の集積を進めるに当たり、社会情勢の変化に応じて、新たな誘致方策等を打ち出すのが不十分であり、今後に向けては、以下の視点や取組を検討すべき。

- ・外資系も視野に入れ、プレイヤーを意識した企業誘致への取組
- ・消費地近接型ではなく資源依存型の立地に優位性があることを踏まえ、農産品の付加価値を創出する取組
- ・農産物の加工技術を有する企業の誘致により産地との連携強化
- ・まちづくりの観点から実証実験を誘致するなど、社会的課題解決に資するフィールドとしての活用
- ・再生可能エネルギーの生産を立地優位性に結びつける取組
- ・情報化・省力化に対応する人材の育成と人材確保のためのアメニティの整備

3. 苫東開発の基本方向

○苫東の役割

世界を視野に入れた競争力のある幅広い産業開発を進めるとともに、環境の保全や社会的課題の解決に貢献するため、地域の活用を図る。

○計画的な立地

進め方【第2期】を引き継ぎ、各産業・プロジェクトの推進が計画的、効率的に実施されるよう、土地造成、基盤整備が比較的進んでいる地区を優先的開発推進区域として以下のとおり区分し、各地区に適した展開を進める。

- 1) 柏原台地及びその周辺地区
- 2) 遠浅地区
- 3) 臨海低地部等

○今後取り組む産業・プロジェクト

- ・再生可能エネルギー関連施設の誘致により、CO₂削減などの環境施策に貢献するとともに、地域内での活用を進めることにより、災害時のエネルギー供給の安定や生産機能の強靱化につながる方策を検討
- ・食の付加価値を高める取組として、近年の健康志向の高まりを背景とし成長している漢方・健康食品の生産・研究開発施設の誘致
- ・農林水産業の競争力の強化と担い手不足の解消に寄与するロボット・ドローン産業の誘致
- ・大型冷凍冷蔵施設を核とした食の移出入・輸出入の物流拠点化を進めるとともに、食品加工を始めとした多彩な食産業の集積（ジビエ加工、陸上養

殖も視野に)

- ・寒冷地・高齢化社会におけるまちづくりを踏まえ、自動運転の実証実験や研究施設の誘致

○推進体制

- ・苫東推進担当者会議による各機関の連携を一層強化するとともに、時代や潮流の変化に応じ、弾力的・機動的な展開に努める。

4. 苫東開発の展開方向

○企業立地方策

- ・外国・外資系企業も視野に誘致活動を展開

(方策例)

関係機関のHPの充実や海外事務所による誘致活動

日本貿易振興機構（JETRO）の制度等を活用し企業のニーズ等を把握

- ・地域固有のエネルギーを立地優位性に結びつける方策の検討

地域内で生産される再生可能エネルギーや工場廃熱等からの余剰エネルギーについて、立地企業のコストの低減となる活用を検討

○既存の産業集積を活かした新たな産業の創出

- ・製造業を中心とした既存の産業と新たに展開する食関連産業の技術と知見を取り込み、バイオ（医療）産業や食品加工等の関連産業の創出について検討

○環境との共生・エネルギーの有効活用による産業展開

- ・自然環境と共生した良好な環境の保全に十分配慮した開発
- ・地域固有のエネルギー・資源を活用した産業の育成及び環境関連の既存立地分野の集積を活用した新たな産業集積に向けた検討<水素、燃料電池関連産業等>
- ・リサイクル関連産業の集積など、持続可能な社会の形成へ向けた取組の展開
- ・地域住民等との協働による森林の保全活動や積極的利活用を通じた地域社会・自然環境・産業活動の共生

○強靱な国土づくりに貢献する拠点の形成

- ・北海道と本州を結ぶ物流機能の維持により国内の産業基盤の強靱化に貢

献

- ・優れた交通アクセスと柔軟な対応が可能な用地を活かし、大規模災害時の緊急対策要員及び資機材の派遣・受入れの拠点として活用
- ・災害等緊急時における立地企業等の事業継続のため、苫東地域内で製造される再生可能エネルギーの活用について検討

○苫東地域の優位性等を活かした競争力の強化

- ・北米、ヨーロッパ、東アジアを結ぶ地理的環境や冷涼な気候という北方圏に位置する世界的見地から見た優位性を活かし、北極海航路のアクセスポイントやデータセンター設置の優位性といった苫東ブランド力の向上
- ・苫東地域の広大な土地、良好な交通アクセスを活かし、弾力的・機動的な土地利用を通じた産業施設、研究施設の誘致促進と土地の有効活用
- ・港湾施設や道路ネットワークなどの着実な基盤整備と老朽化したインフラの確実な更新等

○人材育成・人材確保の方策について

- ・人材の育成と、幅広い求人像の検討により、安定的な人材確保への取組
- ・産業の集積に応じた生活環境の整備

5. むすび

○50年の歴史を踏まえて

- ・社会情勢の変化にも対応する苫東開発の「DNA」の更なる進化

○先駆的な取組を実施してきた可能性を秘めた大地

- ・苫東開発に当たったのメッセージを積極的に世の中に向けて発信
- ・苫東地域の優位性を活かして地域社会との共生を図るとともに我が国への貢献

○今後の苫東開発の推進にあたって

※苫東開発の「DNA」

旧計画策定時から、いち早く環境アセスメントを導入するなど、苫東開発のプランニングに影響を与え、今日まで引き継がれる環境との共生という命題